

別記様式（第3条関係）

会 議 録（1）

会議の名称	第8回桶川市地域公共交通会議
開催日時	平成30年6月27日（水） （開会）15時00分 ・ （閉会）17時15分
開催場所	桶川市役所4階 402会議室
主宰者の氏名	桶川市長 小 野 克 典
議長の氏名	桶川市副市長 松 本 幸 司
出席者氏名 （委員）	1号委員：松本幸司 2号委員：長南克幸、田沼健一、山科和仁、鈴木貴大、野口佳一 3号委員：熊谷恵一、佐藤学 4号委員：鶴岡洋 5号委員：藤田貢 6号委員：稲元良作、保坂輝雄、新井孝雄、北村文子、黒河通明、三澤みどり 7号委員：青木宏之 8号委員：金子秀和 9号委員：岡村敏之、畦地英樹、曾田信行
欠席者氏名 （委員）	3号委員：高橋宏之 9号委員：後閑浩幸、野崎高司、綿貫真一
事務局職員 職名及び氏名	安心安全課：課長・稲垣裕司、主幹・中野栄司、主事・虻川海 オブザーバー 高齢介護課：係長・柳川恵美、主事・長谷場雄樹
議 題	○確認事項 （1）前回会議の会議録の確認 （2）前回会議の振り返り
	○報告事項 （1）地域説明会の結果について （2）乗降調査の結果について
	○協議事項 （1）市内循環バス見直し運行計画（素案）について （2）市内循環バス見直しに係る運賃割引等について
	○その他 （1）今後のスケジュールについて
決定事項等	なし

配布資料

- 委員名簿・座席表
- 会議録（第7回地域公共交通会議）
- 【資料1】前回会議の振り返り
- 【資料2】市内循環バス見直しに関する地域説明会について
- 【資料3】『桶川市内循環バス「べにばなGO」の見直し運行計画（素案）』の概要
- 【資料4】市内循環バスの見直しに係る運賃割引等について
- 【資料5】市内循環バス見直し検討スケジュール
- 【参考資料①】倉田、川田谷薬師堂地区の乗降調査の結果
- 【参考資料②】市内循環バス見直し運行計画（素案）について
- 【参考資料③】地域説明会の意見を受けて想定したルート素案

会 議 録 (2)

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会 ・ 会長あいさつ
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の会議は委員 25 名の内、21 名の出席。過半数の出席のため、要綱に基づき、会議は成立となる。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議は原則公開となっているが、本日の会議で、非公開とする事項はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ なし
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の会議はすべて公開とする。 ・ 本日の傍聴希望者はいるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 傍聴希望者なし
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の会議の会議録署名人は保坂輝雄委員にお願いする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 承諾
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題 <p>【確認事項】 (1) 前回会議の会議録の確認</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明 ※会議録 (第 7 回地域公共交通会議) <p style="text-align: center;">～ 指摘等無し ～</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【確認事項】 (2) 前回会議の振り返り
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明 ※【資料 1】前回会議の振り返り <p style="text-align: center;">～ 指摘等無し ～</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【報告事項】 (1) 地域説明会の結果について (2) 乗降調査の結果について
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明 ※【資料 2】市内循環バス見直しに関する地域説明会について ※【参考資料①】倉田、川田谷薬師堂地区の乗降調査の結果について

委員	<ul style="list-style-type: none"> 乗降調査の中で、バス停「小針領家夜回り」とは、地図上でどの辺りになるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ※地図を用いて説明
委員	<ul style="list-style-type: none"> バス停「小針領家夜回り」の利用人数が多く、場所が「りんごの家」の近辺であることがわかった。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 桶川霊園へのアクセスで、案内にバス停「氷川諏訪神社入口」から徒歩何分という記載があったが、そこを走るバスは1日に数本しかない。氷川諏訪神社から桶川霊園までは、交通量も多く歩道が整備されていないことから、歩くのは危険であり、バス停を記載されても役には立たないという声があった。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料の乗降調査は2週間であるが、今回どれくらいの期間で調査を行う予定なのか。また、調査の事前告知をするのか、しないのか。 川田谷での説明会時には、対比する地域の調査期間が異なること等から、資料にもあるとおり「調査の仕方が少し乱暴ではないか。」という意見があったようだが、調査の方法や結果の評価はどのように行うのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今回の調査は、見直しにより影響のある川田谷薬師堂地区、倉田地区のバス停における乗降の状況を再度確認するため、調査期間1ヵ月とし、運行事業者に依頼し6月7日から調査を実施している。 また、川田谷での説明会において、地域公共交通会議では「利用の少ないところにバスを走らせるということは難しい。」という指摘されている旨の説明をしたところ、「利用が少ないのはわかっているが、そこは地域の公共交通として残して欲しい」という意見があった。 事務局としては、これまでの会議での意見を踏まえ、現在6便あるルートを残すためには、1便あたり1人はそのバス停から乗っていただきたいと考えている。 調査方法については、告知して行うべきかどうか考えたが、川田谷での説明会において、今後調査を実施するという事を告知している。 今回の調査も含め利用が少ないのは、そもそも地域の居住者数が少なく、利用される絶対数が少ないということが理由と考えられる。使い勝手が悪いためなのかどうかはわからない。 今回の調査結果だけで判断することは難しい。どのような形で結論づけていくかは、会議の中で十分に協議していかなければ

	<p>ればならないと考える。事務局としては次の会議で見直しルート案も含むパブリックコメント案をお示しし、決定していきたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • できる限り地域の声に寄り添った見直しルート案としたいが、一方で、乗合バスという交通モードがそぐわない箇所については別のサービスを改めて検討する必要があると考える。 • 薬師堂や倉田については、地域の方がそれなりに利用できるようなルートをうまく考えて行きたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • バス事業者を確認したい。地域の公共交通は黒字を求めるものではないとは思いますが、参考資料 1 の結果のような利用状況で、路線バスとして事業を運営していけるものか。考え方を教えて欲しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 説明会の意見の中に「川田谷の薬師堂などのルートをカットして赤字がどれくらい減るのか」という質問があったようだが、明確な答えがないのにそのルートを廃止するというのは少し乱暴かと思う。 • 国交省の資料に実車 1 キロあたりの経費の考え方が示されており、これによれば、おおまかな計算にはなってしまうが、この地域では 1 キロ走るのに 250 円から 300 円の経費がかかると想定される。 • 単純にこのキロあたりの経費を 250 円とすると川田谷薬師堂ルートはショートカットすることで、1 便あたり約 1.5 キロの短縮が可能となり、6 便カットすると 2,250 円の経費が浮くことになる。 • 今回の調査によれば、川田谷薬師堂では乗り降りが 1 日平均 2.8 人である。例えば、2.8 人が 200 円で利用するとなると、560 円の収入となる。 • 2,250 円の経費に対し、560 円の収入ではコストが掛るのでルートを削るとすると、市内循環バスの殆どのルートを削らなければならない。 • 桶川市の循環バスの収支率は 30% から 35% 位である。循環バス全体平均値として収入の約 3 倍を経費として考えると、この地域の収入 560 円の 3 倍の 1,680 円相当が妥当な経費と考えられる。計算上での経費 2,250 円と比較すると経費率は 75% となる。75% が高いのかどうかは議論すべきところだと思う。 • 同じように倉田の方では、約 5 キロの短縮が可能となり 6 便カットすると、計算上は 7,500 円の経費削減となる。利用者は 11.8 人であるから 2,360 円の収入である。この地域では、収入の 3 倍である 7,080 円相当が経費となることが妥当と考えられる。計算上での経費 7,500 円と比較すると経

	<p>費率は94%となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見直しする理由として経費等が100%を満たしていないからルートを削減するのか、それとも経費率100%は全体平均なのだから75%でも良いとするのか、という議論もできるのではないかと思う。 ・ただし、収支については赤字であることに変わりはなく、市として循環バスを運営しているので事業としては成り立つが、民間路線バスとしての運営は困難であると考えられる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料③-1、-2のルート素案がありうるかどうかについては、例えば、迂回をする費用に対して利用者があるかどうかだと考える。加えて迂回することにより他の利用者が遠回りになり、利用者が減る可能性もある。それをどこまで考慮するかということが基本的な考え方であると思う。 ・参考資料③-1、-2が良いかどうかは数字がないのでなんとも言えないことから、今後の協議次第と考える。 ・ルートがないことでその地域が著しく不便になっているかどうかということも1つのポイントである。不便にはなるが100メートル、200メートル余計に歩けば何か他の手段が利用できるということであれば、ご理解を得るということも通常ある。 ・山間地のような、バス停まで歩いて1時間というようなところで利用者が1日1人だから運行をやめるとするのは、利便性ではなく生存権というレベルの話として考えていかなくてはならない。 ・川田谷薬師堂がそのような地区かということ、納税者である市民が判断することではあるが、一般論としては著しくどうにもならないという地域ではないと考える。 ・基本的にはコストなど他との兼ね合いやバランスで決めていくことで、それほど問題はないと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の発言にあったように、地域の状況を見ながら納税者全体で考えていくことになると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的にどのようなルート案にするのかということは、この後の議事の話であるが、特に厳しい意見をいただいた地域の説明会の状況はどうだったのかということを経務局もしくはその地域の委員の方にお伺いをしたい。 ・その地域のバスがなくなることを歓迎する人はいないので、資料2に記載されているのは地域の率直な意見だと思う。 ・バス計画となると、そういった意見を受け止めなければならないが、一方で、現状でバスが1日5便や6便とそんなに多くはないので、バスがない時間でバスしか移動手段がないという人であれば、何か別の手段を使っており、別のバス停ま

事務局	<p>で歩いているということも多少はあると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出掛ける必要がある中で、バスの時間が合わない場合はどうしているのか。バスの時間が合わないと家から出ることができないという方が地域の中で大半であれば考えなければならない。 ・ 今回の厳しい意見は、普段バスを利用していないが地域のためを思って発言しているのではないかということが想定される。 ・ 実際に年に数回は乗っていますという方の率直な意見がなければ、中々解決策に至らないと思う。利用されている方の意見はあったか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 川田谷薬師堂の説明会には 26 名の地域の方の参加があった。そのうち 3 名の方から東西循環（外回り）については、乗りたいのだが時間が合わないため、普段は西循環のバス停まで歩いて行って利用しているという意見があった。この 3 名についても、毎日使っているわけではないという話であった。 ・ 1 時間に 1 本程度ある西循環であれば、時間に合うように乗れるので、目的地まで急ぐ時はそちらを利用しているという意見もあった。 ・ 3 名以外の方は、東西循環（外回り）を 1 週間または 1 月に 1 回という利用状況であることが確認できた。 ・ 自身で運転をされる高齢者の方からは、循環バスを殆ど利用したことはないが、地域の高齢化が進んでいるため、将来的に皆が免許を返納する時にバスがなくなってしまっは困るという意見が多かった。 ・ また、薬師堂地区の方からは、松原地区の人がどれくらい乗っているのかという質問もあり、13 便ある内の半分ぐらいは薬師堂地区を走らせてほしいという意見もあった。 ・ ただし、実態として薬師堂の方が松原の方まで歩いて行って西循環に乗っているということは実際には、多くないという感じである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松原地区の方は、これまでの調査で利用はそれなりにあることが確認されている。その中の何人かが薬師堂地区から上尾道路を渡ってきている人かもしれないが、それも 1 日 1 桁の前半で、5 人というよりは 1 人ないし 2 人という状況なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのような状況であると認識している。 ・ 薬師堂は 28 年度に設置したルートであるため、地域からはどうかして残して欲しいという意見もあり、その意見は会議に伝える旨を回答している。そういった意見もあることを

議長	<p>踏まえて、本日議論を願いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【協議事項】（１）市内循環バス見直し運行計画（素案）について
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・説明 ※【資料３】『桶川市内循環バス「べにばなG0」の見直し運行計画（素案）』の概要 【参考資料②】市内循環バス見直し運行計画（素案） 【参考資料③】地域説明会の意見を受けて想定したルート素案
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・西側南ルートについて、川田谷薬師堂地区で説明会を行い、私自身もその説明会に出席させていただいた。その中で地域からはこの地域を見捨てるのかというような感じがあった。 ・桶川西高校から南側の薬師堂地区ルートは、地元からの要望により設定されたものである。 ・２年前に新たにルートができたが、今回の見直しでルートがなくなっており、地元からは強い反対がある。 ・薬師堂地区は、上尾道路に近いため住宅が張り付いてきているようにも感じられる地域でもある。高齢者の方が医者等に行くために循環バスを使う際、上尾道路を横断して今の西循環のバス停まで行くのは厳しい部分がある。 ・利用状況や経費の問題もあり、先程の委員からの説明も納得はできるが、これは市として補てんすることも、市としての公共交通政策としての役目であると思う。薬師堂のルートは、地域の意見を踏まえ残してもらいたいと思う。 ・青の路線の半分を薬師堂地区に回してもよいのではないか。 ・参考資料③－１のルートは、薬師堂集会所で転回するのではなく、薬師堂をそのまま通した方が良いと思う。 ・現在、薬師堂集会所も建て替えを行っており、地域の方々が集まる施設となることから、バスを利用して立ち寄る人もいると考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブ連合会でも薬師堂地区のお年寄りの方々から不満や存続の声が寄せられている。ぜひルートの再検討をお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・倉田、小針領家について、地域から様々な意見が寄せられていることから再度ルート等の検討をお願いしたい。 ・利便性も考慮しなければならず、参考資料③－２として事務局から薬師堂集会所のバス停を残す形の案も出ており、時間もさほど変わらないということでもあるので、ある程度の停留所は残して運行するようにしていただきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> 川田谷薬師堂地区についても停留所だけは残していただき、13便全部とはいわないまでも、何便かはまわすように事業者等と再度調整していただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> この会議でバスの見直しを行った後に、タクシー等を活用した見直しも行うのか。 今の会議の流れだと、バスの見直しの話だけで終わりそうに感じた。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 以前の会議で、議長から循環バスとタクシーの両方について一度に議論をすることは難しいため、当面の間は循環バスについて議論し、その後でタクシー等について議論をするということになっていたと認識している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> バスとタクシーをあまり離して考えると、ルートがなくなるところの地域の人たちは不安になってくると思う。 バスではなく、タクシーであればドアツードアで移動できて非常に便利である。また、民生委員がボランティアを立ち上げて病院への送迎をするものもある。 バスだけではなく、いろいろな面から移動手段を考えていけば、地域の人たちの気持ちも少しは変わってくると考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 倉田のところは利用が少ないため、ルートを外したという説明を受けたが、不便になる人たちをどうするのかという議論を抜きにしては考えられないという意見が出ていたと思う。 不便になる人を抜きにして、ルートを変更することは、その地域の住民は納得できないと考える。 デメリットの出る地域の政策を福祉政策として考えるとか、タクシー券の補助をするとか、NPOによる福祉運送を導入するなど、抱き合わせにしない限りは地域の人たちは取り残されていってしまい、解決はしないと思う。 高齢者対策や免許返納者への対策も併せて、立体的に検討していかなければならないのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> この会議の経緯の中でも、地域公共交通会議が取り扱う全体の範囲の中で、当面は循環バスについて議論を行うことで合意し、会議を進めてきたところである。 バスの議論の後で深めていくべき内容が、引き続き地域公共交通会議でやるべきものか、市全体のさらに大きな枠組みの会議の中で議論していくべきものかについては、今後の整理が必要だと思う。 高齢者や免許返納者への政策に関しての進め方等は、引き続き事務局でも整理をしていただきたい。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、川田谷地区については、非常に厳しい意見があった。 ・高齢者等への政策として、市内の高齢介護担当との協議は開始しており、どのように地域の方々へお示ししていくのかを検討している状況である。 ・循環バス見直しの基本方針に基づき、駅への速達性を高めるとか、利便性の向上を図ることを目指していることから、どこかで線を引かないといけない。 ・バスの利用が少ないところにバスを走らせるということは、バスを利用しない方にとっては、税金を無駄に使っているように見えてしまう。 ・高齢者政策として取り組む部分や、公共交通として取り組むべき部分を高齢介護担当と協議し、より良いサービスを実現していきたい。 ・バス停まで歩くことが可能な人と、バス停まで歩くことが不可能な人を分けて考えなければ、議論の終着点にいかないと思う。公共交通としては、バス停まで歩くことが可能な人を対象として考えたい。 ・なお、倉田の部分については、老人福祉センターの送迎バスも走っており、朝と午後のみ運行だが、指定管理者である社会福祉協議会とも協議をしている。倉田の今回ルートを外す部分をそちらの送迎バスに通ってもらえるよう調整しているところである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで会議に参加しているが、全てがバスの議論である。 ・この見直しでタクシー業界はどうなるのか。バスが便利になるにつれて、タクシーは端へ追いやられている。 ・第3回の会議の時にタクシーの現状を示し、タクシーのことも考えてもらえないだろうかと言った時に、まずは循環バスを見直し、それが終わってから議論するという事になったと理解している。 ・免許返納者への対策など、バスでできないことはタクシーへお願いするという議論でここまできており、今日の会議でも細かいルートや所要時間等も議論していない。 ・実際のところ、今後桶川市でタクシーはどうなってしまうのかと思っていることが本音である。 ・循環バスの見直しで利便性が向上すると、我々の首がどんどん絞められる。 ・今後の会議もバスはバスで考えて行くのか、タクシーに任せられるものはタクシーも検討して行くのか、その辺を事務局がどう考えているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの話だけで議論が進んでいることから、タクシー事業者の方には心苦しく思っている部分がある。 ・タクシーの需要は、現状でもかなりあると考えており、今回

委員	<p>の見直しでその需要が大きく減ることを想定はしていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正確な時間で、ドアツードアで移動できるタクシーを必要としている方は非常に多いと思う。 ・ 現状でも路線バスや循環バスの手が届かないところは、たくさんあり、そういったところに対してタクシー事業者に頑張ってもらっている。 ・ 今後、福祉政策や免許返納への対応でタクシーの活用が考えられる。その議論がいつ頃という約束はできないが、タクシーのことも考えていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスの利用者が少ないところは、どのようにして利用を増やしていけるかを考えていかななくてはならないのではないかな。 ・ 桶川市では川田谷や加納が一番バスを必要としている。市街地の方は、駅にも近く、買い物できる施設もあり、歩いて移動が可能なことから地理的に恵まれている。 ・ ルートを見直すだけでなく、いかにして利用者を増やすかということも考えて見直しを行うべきである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私自身も地域説明会に出席したが、私が行った会場は参加者が少なかった。 ・ 今日の会議で資料の結果を見た時に、反対意見がこんなにあるのかと非常に驚いている。 ・ 運賃についても、100円から200円にする場合の意見も出ているということを入念に入れておかななくてはならないのではないかなと思う。 ・ 桶川市の循環バスは県内で運行されているコミュニティバスの中では成績はトップクラスであることが以前の会議の資料に示されていたが、他の委員も懸念していたルートがなくなるところの補填について、1日2,000円から3,000円の経費でできることは何かあるのかを考えると、今まで通りのルートで循環バスを走らせた方が良いのではないかなとも思ってしまう。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ この会議は、まずは循環バスの見直しについて議論を進め、試験運行等を実施する。その中で、交通空白地やバス停まで遠いというような意見がでてくると思うので、バスではない手立てを考えていくものであると思う。 ・ この会議でも、デマンド交通なども将来的には示唆していかなければならないと思っていた。 ・ 北本市は人口が減ってきているが、桶川市は区画整理を行っていることでほぼ横ばいを維持しており、桶川市は都市計画に投資をしている。 ・ 公共交通においても投資をしていき、桶川市の循環バスなどが良いイメージを持ってもらえることで、人口の流入につながる。

<p>委員</p>	<p>がるような街にすることを考えても良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上尾道路を通す際に、周辺の住民からは、地域として置き去りにされた気持ちだったという声があり、上尾道路より川越側の方々は皆が不便になったと口を揃えて言っている。 ・ 公共下水を作ると言っていたのに、作られなかったり、作ると言っていた上尾道路と市道との立体交差が実現しなかったりと、川田谷の住民は、上尾道路に対し良い思いを持っていない方がいる。 ・ そこへ、今回の循環バスの見直しの話が重なったことで、置き去りにされたという気持ちがより強くなったと思う。 ・ 地域の方からするとルートが変わる、変わらないはあまり関係が無く、自分たちがどのような位置に置かれていて、どういう街づくりの視点なのかということが大切であり、地域としては益々高齢化していく中で、より深刻となっていく。その時に、不安材料となるものがあれこれ取り上げられてしまうと地域として怒るのは当たり前である。運行ルートだけを見直してやっていくことは机上の空論である。 ・ 地域に住んでいる方々がどうなのかということを考えていくことが地方自治であると思う。 ・ 本当に運行ルートが変わった時に、住んでいる方がどうするのか、どういう街づくりにするかということと同時に並行で行わなければ、置き去りにされたという不満を持つのは当然である。 ・ 時間がかかっても、不便になる地域にこういう方策を考えているということを見直し方針の中に加えた方がいいと思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 便利になったところはあまり反対意見が無いと思う。 ・ 上尾道路で分断されたなど、地域の中には不満があり、それを受け止めることが重要である。 ・ バスは二の次というわけではないが、もともとあった課題が公共交通の見直しがきっかけで出てきたのだとすると、逆にバスを走らせて不満が収まったところで地域の課題としては何の解決にもなってはいない。それで満足すると行政側の欺瞞で終わってしまうので丁寧に議論を進めてもらいたい。 ・ 利用されていないという事実は地域の方々に受け止めてもらわなければならない。 ・ バスの見直しをしているところでは、どこでも初めは行政と地域との間で乗る乗らないの水掛け論が始まる。地域が、それではいけないということに気付いて、地域の中でバスを盛り上げていくという考えになっていただくということが成功へのストーリーであり、今回のいただいた意見は成功への第一歩目の経過であると思う。 ・ しかし、今回事務局が示した代替え案だと、薬師堂東のバス

	<p>停付近は中型バスが入れないので、バスの車両を変えなければならない。そうすると、薬師堂の代替え案は車両を変えるためのかなりの経費がかかることになる。この案のために小型を走らせると 1 日 2,000 円では済まなくなり、手も足も出なくなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域には経費の話まではしていないと思うが、その話はしておくべきである。 ・ 上尾道路を横断しないとバスに乗れないというのは大きな課題であり、上尾道路で分断をされてしまった地域に参考資料③-1 のような形で 6 便程度はルートを設定するようにする以外に手はないのではないかと思う。 ・ 倉田については現状、駅から乗る人は多いが、駅へ向かうのは少ない。今回の見直しで駅に行く際は便利になると思われるが、もう少し工夫をしても良いと思う。 ・ パブコメの際は、点線若しくは細い実線で出すとしても、他のルートの地域と同じ土俵で評価してルート案を決めていくか。もうひとつ次の段階で試験運行をしてみても検討するのか、など違う進め方での議論もできるのではないか。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【協議事項】 (2) 市内循環バスの見直しに係る運賃割引等について
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明 ※【資料 4】市内循環バスの見直しに係る運賃割引等について
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例の補足として、東京都のシルバーパスの場合は高齢者からすると実質無料という感覚であり、利用者からは大変喜ばれている。しかし、財政支出に加え事業者の負担はかなりのものである。 ・ 堺市の割引制度は、専用の IC カードで乗車記録をしっかりと残しており、市から差額の何割かは事業者に入ってくるため、事業者自身の持ち出しはないような感じであり、利用される高齢者にも一定の負担はしてもらっている。 ・ 地域によっては高齢者政策として、年間や半年いくらか負担すると 100 円で利用できる取り組みや、定期のような取り組みを行っている事業者もあり、そのような割引を行っている事業者にはある程度の補填を行っている地方自治体もある。 ・ 料金については、事業者ごとのやり方もある中ではしっかりとすり合わせをしないと議論が進まない部分もある。 ・ 事務局と事業者間で次の会議に向けてしっかりと調整を行ってもらいたい。 ・ このような議題が挙げると、割引をしなければならないという考えになってしまうが、割引をするには理屈が必要である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・より必要とされている人に割引したり、たくさん使っていたでいて実質の支出はあまり無いような金銭的な考えでもよいが、循環バスの基本料金を200円に値上げしたとしても、市からの財政支援があり、一方で民間の路線バスに関しては補助等が無い。さらに割引制度を導入するとなると、二重に割引をしていることになる。 ・循環バスの利用者には財政支援があり、特定の人には割引制度の恩恵も受けられることになった時に、割引対象にならない方の観点からどう考えられるか意見を募ってみてはどうかと思う。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・【その他】今後のスケジュールについて
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・説明 ※【資料5】市内循環バス見直し検討スケジュール <p style="text-align: center;">～ 意見等無し ～</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議題全体を通しての意見などあるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の会議では高齢者の料金について、市内の65歳以上の利用者がどのくらいいるのか。免許返納者がどれくらいかのデータを提示していただければありがたい。 ・敬老月間の時に、市が高齢者に循環バスの無料乗車のはがきを配布しているが、その事業で、どれくらいの経費がかかっているのかのデータも参考として提示してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市内でも65歳以上の方は3割以上いる。 ・パブコメに諮っていくのであれば、高齢者としてどの年齢から割引を行うか、財政面でもう一度検討するべきである。 ・そのためには市内の高齢者数などのデータが必要になるので、提示していただければありがたい。 ・高齢者への割引政策をやっていくとなると、その証明書が必要になるので、どのような形態の証明書にしていくかも議論していくべきである。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局は本日の議論を踏まえて、今回、資料として提示した市内循環バス見直し運行計画（素案）の書き込みをもっとしっかりやっていかないと、見直しの根拠資料になっていけないと思う。引き続き事業者とよく調整をしながら運行計画（素案）のまとめ作業等をお願いしたい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・他に意見等が無ければ終了としたい。 ・以上

平成30年 9月26日

会議録署名人 保坂輝雄
